

# 2015年度日本農業経済学会 第2回常務理事会 議事録

(一部修正 4/26 p5)

開催日時：2016年2月28日(日) 13:00～16:20

会場：東京大学農学部1号館 農業・資源経済学専攻会議室(3階324号室)

出席者(21名)：生源寺会長，福井副会長(学会誌)，玉副会長(学会賞・国内学術交流・改革)，米倉副会長(国際交流)，中嶋副会長(企画・改革)，櫻井清一理事(庶務)，神代理事(庶務)，松下理事(財務)，立川理事(和文誌編集)，福與理事(学会賞・国内学術交流)，不破理事(国際交流)，能美理事(企画)，梅津理事(情報)，鶴川理事(開催校)，岡田理事(北海道)，森田理事(東北)，木南理事(北陸)，三田村理事(近畿)，保永理事(中国)，中道理事(四国)，農林統計協会・武石参与(事務局)

オブザーバー：草苺会員(会長特別補佐として)

欠席者(3名)：櫻井武司理事(英文誌編集)，荒井理事(中部)，矢部理事(九州)

1. 学会長挨拶：生源寺学会長

## 2. 2016年度秋田県立大会について

A) 大会企画の準備状況：中嶋副会長(企画)

- ・ シンポジウム，大会報告要旨集の準備状況の報告と確認がなされた。
- ・ 大会スケジュールや，「大会報告要旨」の内容に関して，いくつかの修正候補事項が指摘された。今後，校正段階で反映させる。

B) 大会開催校の準備状況：鶴川理事：開催校

開催校の準備状況と，内容確認がなされた。特に，①確保している会場・教室の確認，②諸会議の確認(会場・時間，参加人数，弁当の手配の有無)，③その他(シンポ，総会の時間割，シンポ時の質問票のコピー，必要物品，出版社ブースなど)について，報告された後，質疑を通じて詳細な内容を確認しながら，不明瞭だった点を検討した。

## 3. 報告事項(各担当の業務について)

(1) 企画 2. と重複するので省略。

(2) - 1 編集(和文誌)：立川理事

① 「農業経済研究」の編集状況

- ・ フルペーパーの投稿は現在もなお少ない(2015年度：投稿7，採択1，却下3，審査中3。2016年度：投稿数1，審査中1)。

- ・ 2015年度の報告論文は、87巻2～4号(3月刊行)に分載して掲載。報告97, 投稿75, 掲載44, 却下・取り下げ31(掲載率58.7%)
  - ・ 2016年度の予定は、大会シンポは88巻1号(6月刊行), ミニシンポは2号(9月刊行), 報告論文は2号(9月刊行)・3号(12月刊行)・4号(3月刊行)の予定。(ミニシンポ:分量 日韓シンポ並み(規程は2500字以内), 締め切り 7月上旬, 査読あり。)
- ② 表紙レイアウトの変更
- ・ 87巻(2015年度)では、報告論文のタイトルを表紙ではなく、別途作成する目次ページに列挙する方式をとった。88巻に関しては、変更の可否について、様々な方式を考慮して検討したが、結論として、現行方式(87巻:2015年度)を踏襲することにした。
- ③ 編集委員の交代
- ・ 和文誌(8名) 4名が退任, 4名が継続, 4名が新任。
  - ・ 報告論文(5名) 2名が退任, 3名が継続, 2名が新任。
- ④ その他
- ・ 本誌での論文(フルペーパー)と報告論文との体裁上の違いを小さくするために、報告論文の大会申し込み時点でのテンプレートと投稿細則を微修正した。
  - ・ オークサーシブや倫理規定の問題を議論し、今後の懸念事項とし、次期に引き継ぐ。
  - ・ 大会時に開催された特別セッションの原稿が報告論文として投稿され、掲載が決定した場合、実際の掲載方法に関して検討した(現行:報告論文スタイルとして扱っているため、掲載時にバラバラになる → 今後:特別セッションとして並びをまとめて、特集のような形で掲載)。ただし審査から掲載決定までの流れは、不公平にならないような配慮が必要である。当面は、規程は変更せず、運用面で工夫することとした。

(2) - 2 編集(英文誌) : 福井副会長

① 「JJRE」の編集状況

- ・ フルペーパーの投稿は現在もなお少ない(2015年度:投稿0, 掲載1(投稿2014年)。2016年度:投稿数1, 掲載1)。
- ・ 2015年度の報告論文は、投稿15, 掲載6, 却下・取り下げ9(掲載率40%)。2016年3月刊行分には、論文2, 報告論文6を掲載予定。
- ・ 2017年3月号は、2016年度大会の報告論文と、投稿論文を掲載する予定。しかし、現時点で審査中の論文はなく、新規の投稿がないと、学会誌賞受賞論文の英文化以外には、論文がなくなる可能性がある。

② 国際化への対応

<英文誌の名称変更>

- ・ 国際的認知度の向上の観点から、英文誌名の変更を検討。

JJRE (The Japanese Journal of Rural Economics)

→ JJAE (Japanese Journal of Agricultural Economics)

<国際シンポジウムの英文誌への掲載>

- ・ 2015 年度大会の日韓シンポジウムの成果は、『農業経済研究』87 巻 2 号に掲載された。
- ・ 大会で実施されている日韓シンポジウムを、相手国を限定しない国際シンポジウムとし、成果を英文誌『JJAE(JJRE)』に掲載できるように、制度化する。

③ 編集委員の交代

- ・ 2 年に 1 回交代しているが、今年度から来年度に向けて交代する委員はいない。  
(編集委員長 1+編集委員 7 (うち報告論文担当 3))

(2) - 3 学会誌賞 : 福井副会長

- ・ 『農業経済研究』第 86 巻第 4 号から第 87 巻第 3 号、並びに JJREVol.17 に掲載された論文 5 本を対象に、2 月中旬に開催された選考委員会において協議し、論文 1 本に絞り込んだ。授賞候補論文と選考理由についての説明後、常務理事会の議を経て、理事会に推薦することが了承された。

(3) 財務 : 松下理事

<会費納入率向上対策>

- ・ 会費納入率は高くなく、特に学生会員の納入率が低く、問題として指摘されている。
- ・ 前回の常務理事会で提案された、学生会員の「複数年(2~3年)枠」の新設については、他学会での情報収集を進めると、実は利用者はごくわずかであることが判明した。
- ・ 2016 年度秋田県立大学では、大会開催期間中に、会費納入窓口を特設し、当日の入会、現金での会費納入、次年度分の前払いなどに対応できるようにする。事前の HP 情報、当日会場等での告知など、会員に向けて広く周知するようにする。

(4) 情報 : 梅津理事

① J-STAGE への会誌掲載状況

『農業経済研究』

- ・ 科研費(研究成果公開促進費:学術誌データベース)の単年度採択により、予算 90 万円が交付され、2 巻×4 号分を J-STAGE 上で公開した(第 74 巻(2002 年度)、第 85 巻(2013 年度):ともに第 1~4 号)。また、第 86 巻(2014 年度:第 1~4 号)は 3 月中旬に公開予定である。
- ・ これまで応募し採択されてきた科研費(研究成果公開促進費:学術誌データベース)の枠が廃止。
- ・ 科研費(研究成果公開促進費:国際情報発信強化)は、2015 年度は不採択。

『JJRE』

- ・ 2015 年 3 月 14 日に J-STAGE に採択され、9 月 15 日より J-STAGE 搭載を開始し、

2015年度は13巻分をJ-STAGE上で公開した (Vol. 5 (2003) ~Vol. 17 (2015))。

- 英文誌の検索に有利な CrossRef DOI を選択している (『農業経済研究』は日本語文献用の JaLC DOI)。
- ② 学会ホームページ上での J-STAGE へのリンク
- 『農業経済研究』、『J J R E』双方の J-STAGE での掲載開始に伴い、2015年10月から学会ホームページ上に、J-STAGE のバナーを作成し、会員によるアクセスを容易にした。

#### (5) 国際交流 : 不破理事

- ① 国際農業経済学会 (IAAE) について
- 2015年8月にミラノにおいて、国際農業経済学会が開催された。
  - 過去からの慣例に従い、大会開催時に5,000ドルの資金援助を行った。
  - 同大会にて報告を行った若手会員 (高橋大輔会員、張采瑜会員、高山太輔会員) に対し、JB賞を授与した(2015年6月21日)。
  - 本学会員の提案が受理され、シンポジウムが開催された。この参加者に対して、会長判断により旅費支援を行った (大江靖雄会員、伊東正一会員、高橋大輔会員、本間正義会員「Organized Symposium 「Coping with Farm Structural Change and Emerging Demands: Challenges and Opportunities in Farm Sector in Japan and Korea」)。
- ② アジア農業経済学会について
- 次回大会は、2017年1月タイ (カセサート大学) が予定されている。Call for Papers などで、詳細が発表され次第、学会HP等を通じて周知をはかる予定である。
  - これまでは慣例により、大会開催時に10万円の資金援助を行ってきた (直近では2014年ダッカ大会時)。次回大会以降は国際農業経済学会宛と同様に5,000ドルの資金援助を行う予定である。
- ③ 国際誌掲載支援のための特別企画
- 3月30日13時~15時に、以下の要領により、実施する。  
第一部 「国際誌掲載支援のためのクリニック」(60分程度)  
第二部 「国際誌掲載を目指す人のためのQ&Aセッション」:(60分程度)

#### (6) 学会賞・国内学術交流 : 玉副会長 福興理事

- ① 学会賞 (学術賞・奨励賞)
- 9月末に「農業経済研究」第87巻第2号を通じて募集要項を告知し、12月末に応募を締め切った。送付された複数の業績を対象に、2月末に開催された選考委員会において協議し、学術賞1本、奨励賞1本に絞り込んだ。授賞候補業績と選考理由についての説明後、常務理事会の議を経て、理事会に推薦することが了承された。

② 農業経済学関連学会協議会

- ・ 2015年3月29日（日）に、東京農工大学農学部において開催し、以下の4つについて情報・意見交換を行った。①関連学会における連携した取り組み、②科研費の動向、③日本学術会議の活動との連携、④研究成果の政策等への活用
- ・ 本大会終了後の2016年3月30日に、秋田県立大学において、協議会を開催予定である。

③ 日本経済学会連合

- ・ 評議員会が2回開催された（2015年5月18日、2015年10月26日）。

④ 日本農学会

- ・ 評議員会が開催された（2016年1月22日）。
- ・ 運営委員会が3回開催された（2015年9月4日、2015年12月11日、2016年3月7日）。
- ・ 次年度は世話係（常任委員）の当番が本学会に回ってくる予定（2017年1月～2019年1月）。年6回の会議出席+庶務/企画/会計のいずれかを担当。

（7）庶務 : 櫻井清理事

① 庶務担当常務理事の交代

- ・ 2015年度から庶務担当常務理事は半舷上陸方式の2名体制に移行している。候補者は関東地区の会員の多い11大学・期間より順に選出（「役員選出細則」、「役員業務等細則」）
- ・ 今回の選出校である筑波大学に9月、候補者選出を依頼し、首藤久人会員が候補者として推薦された。12月にメール稟議による関東地区理事会を開催し、首藤会員を正式な候補者とするのが了承された。候補者は、理事会および総会で承認される見込み。

② 会員数の動向

	正会員	名誉会員	学生会員	購読会員	計
2010年3月1日	1,100	34	404	20	1,558
2015年2月1日	1,067	44	391	14	1,516
2016年2月1日	1,080	43	412	14	1,549
対前年増減	13	-1	21	0	33

③ 2015年度の主な会議開催状況

2015年	5月17日	第1回幹事会
	6月21日	第1回常務理事会
2016年	2月28日	第2回常務理事会
	3月28日	第2回幹事会
	3月28日	第1回理事会

#### 4. 協議事項

(1) 決算・予算案 : 松下理事

- ・ 前年度からの増減が顕著な項目は以下の通りである（ただし、2014年度から2015年度にかけて会計期間の変更があるため、厳密な比較は難しい）。
  - ◇ 会誌の印刷費，発送費の節約 ← 論文集廃止の影響
  - ◇ 大会費の節約 ← 開催校の節約努力
  - ◇ 会議費の節約 ← 東京大学の協力
  - ◇ 旅費の節約 ← 旅費に関するルールの整備と関係者の協力
  - 論文集（報告論文）投稿料の減少 ← 論文掲載数の減少
  - 学生会員会費の減少 ← 学生会員の会費納付率の低下
- ・ 決算案，予算案，会計資料の説明の後，常務理事会では了承された。
- ・ 会計監査は3/4に実施予定。その後，理事会で審議・決定，総会で審議，議決。

(2) 理事・幹事の推薦 : 櫻井清理事

- ・ 3月末の大会をもって現理事の任期は終了する。今期の理事は総会の30日前までに次期の理事候補者を推薦する（役員選出細則）。再任は可能。
- ・ 現段階での候補者一覧が示された。候補者は理事会（3月28日）および総会（29日）の承認を経て正式に選任される。
- ・ 新理事会が29日夕方に開催予定。この場で新正副会長が選ばれる。新役付理事は4月以降，早急に決定する予定。
- ・ 新会長が会長指名理事の候補者を指名する。

(3) 名誉会員の推薦 : 櫻井清理事

- ・ 会則第4条（会長，副会長経験者，または本会に特に功績があったと理事会が認める満65歳以上の者）と照合すると，新たに2名の会員が該当する。理事会の場で名誉会員として推薦することを了承した。

(4) 2017年度大会 : 中嶋理事

- ・ 2017年度大会は，千葉大学を開催校とし，2017年3月下旬に行う予定である。詳細は確定次第，会誌・HP等で案内する。

(5) 改革 : 中嶋理事

- ・ 現在の業務・組織を見直し，次の5つの事項を中心に検討した。
  - ① 従来任期1年目の庶務担当常務理事を総務担当常務理事とし，任期は1年とする。

- ② 任期1年の会長補佐常務理事を新設し、前年度の総務担当常務理事が担当する（従来の任期2年目の庶務担当常務理事）。
  - ③ 学会賞・国内交流担当副会長を総務担当副会長に変更し、総務、学会賞・国内交流、財務、情報化分野を所掌する。
  - ④ 学会賞各賞の選考委員会については、学術賞・奨励賞は総務担当副会長が担当、学会誌賞は編集担当副会長が担当、ポスター賞は企画担当副会長が担当したうえで、全体を総務担当副会長が統括する。あわせてポスター賞を学会賞の1つとして明確に位置づける。
  - ⑤ 国際交流委員会を国際委員会に組織替えし、国際化委員会は解散してその業務を国際委員会が引き継ぐ。
- ・ 大会開催校決定に関するルールと、次期担当（副会長・常務理事）への業務引継の標準化を検討し、次期に引き継ぐ。

**(6) 会則・規程・細則の改正と総会の議案・資料作成** : 神代理事

- ・ 理事会と総会に向けて、次の4つの目的を中心に、会則・規程・細則の条文の見直しと改正を行う。
  - ① 役職・業務の変更・見直し
  - ② 英文誌の誌名変更
  - ③ 国際シンポジウム（日韓シンポ等）の大会報告を英文誌（JJRE）に掲載
  - ④ 他の規程との対応関係の明確化
- ・ 最終的な調整は、各担当常務理事の協力を得ながら、庶務担当（神代）が、3/7に印刷所に入稿を目標に進める。

**5. その他**

- ・ 第1回常務理事会で提起された、農林水産省の幹部との定期的な情報交換・交流の場の設置については、実現に向けて、会長が継続して農水省関係者と相談している。また3/30開催予定の農業経済学 関連学会協議会でも情報提供し、意見交換する予定。
- ・ 同じく第1回常務理事会で提起された、女性、若手研究者の学会活動への共同参画を進めるための方法の検討について、具体的に進めるべきという意見があった。重要事項と再認識し、次期への引き継ぎ事項として取り扱う。

文責 : 神代理事 (2016/3/28)